第二部

多彩なプログラム

関東大震災百年特別記念展示：

「東京名所の地震火災を描く『震災石版画』二十五景」

吉川　仁
都市プランナー（防災アンド都市づくり計画室）／元・首都大学東京特任教授

１．はじめに

1923（大正 12）年 9 月 1 日の関東大震災直後の 9 月・10 月下旬に、東京名所における震災火災や避難の状況を描いた迫力ある極彩色の「震災石版画」が売り出された。発行元は、いずれも震災前から絵葉書や名所絵の版元三社（神田の尚美堂／浅草の天正堂集画堂／同じく浦島堂）で、上京者の東京土産や地方への発送を通じて、全国に震災の惨状を伝えるものになった。現時点で25の作品が確認できる。絵柄が同じ復刻が4点あり、これは時期からみて浦島堂が尚美堂から版を譲り受け、再彩色して再発売したと考えられる。サイズはほぼ 40cm×55cm（一尺三寸×一尺八寸）である。

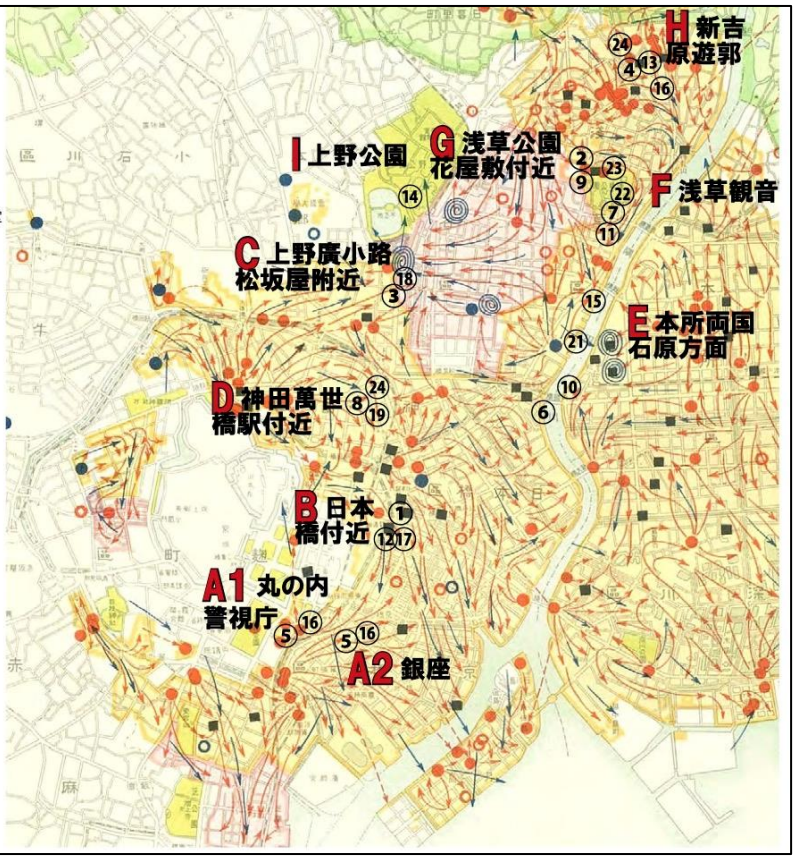
描かれた場所は銀座、日本橋、浅草、吉原、両国等「東京名所」である。神田万世橋駅は当時の交通の要所で「軍神広瀬中佐像」が有名である。

火災の襲来時刻、方向、旋風等は、当時の学者や消防の調査と矛盾がなく、絵師が作成にあたって現地で聞き取り等を丁寧に行って作成したことがわかる。避難者の様相から当時の風俗がわかるが、火災の絵柄とは時間のずれがある。

（帝都大震災画報其四）日本橋より魚河岸及三越呉服店附近延焼天正堂／集画堂　発行　大正 12 年 9 月 30 日

震火災石版画の位置図

① S1（東京大震災画報其一）日本橋大通り三越呉服店附近の惨状　尚美堂
② S2（東京大震災画報其二）
浅草公園十二階花屋敷付近の火の海象君の避難　尚美堂
③ S3（東京大震災画報其三）
上野廣小路松坂屋附近の惨状　尚美堂
④ S4（東京大震災画報其四）
新吉原遊郭花園池避難者の惨状大延焼大混乱の実況　尚美堂
⑤ S5（東京大震災画報其五）丸の内警視庁帝劇東京會舘付近の猛火　尚美堂
⑥ S6（東京大震災画報其六）
両国橋より本所国技館及び本所被服廠方面延焼之大惨状　尚美堂
⑦ S7（東京大震災画報其七）
猛火に包まれて不思議に焼残りたる浅草観音　尚美堂
⑧ S8（東京大震災画報其八）
烈風猛火を煽りて神田萬世端駅付近を焼盡す　尚美堂
⑨ T1（帝都大震災画報其一）
浅草公園十二階及花屋敷付近延焼之状況　天正堂／集画堂
⑩ T2（帝都大震災画報其二）
両国橋より本所国技館方面を望む　天正堂／集画堂
⑪ T3（帝都大震災画報其三）
浅草廣小路及仲見世附近延焼之惨状　天正堂／集画堂
⑫ T4（帝都大震災画報其四）
日本橋より魚河岸及三越呉服店附近延焼　天正堂／集画堂
⑬ T5（帝都大震災画報其五）
新吉原中之町通焼火大旋風之実況　天正堂／集画堂
⑭ T6（帝都大震災画報其六）
上野公園桜雲台に於て殿下災害地御視察之図　天正堂／集画堂
⑮ T9（帝都大震災画報其九）
厩橋より本所横網町方面大旋風之惨状　天正堂／集画堂
⑯ U1（帝都大震災画報）
丸の内警視廳・帝劇・東京會舘附近の猛火　浦島堂
⑰ U2（帝都大震災画報）日本橋大通り三越呉服店附近延焼之真景　浦島堂
⑱ U3（帝都大震災画報）
激震と猛火に襲われし上野広小路松坂屋付近の真景　浦島堂
⑲ U4（帝都大震災画報）
激震と猛火に襲われし神田萬世駅惨状の真景　浦島堂
⑳ U5（帝都大震災画報）
烈風猛火を煽りて神田萬世驛駅附近を焼盡す　浦島堂
㉑ U6（帝都大震災画報）本所石原方面大旋風之真景　浦島堂
㉒ U7（帝都大震災画報）猛火に包囲されたる浅草観音之真景　浦島堂
㉓ U8（帝都大震災画報）浅草公園花屋敷及十二階之真景　浦島堂
㉔ U9（帝都大震災画報）新吉原遊郭仲之町猛火大旋風之真景　浦島堂
㉕ U10（帝都大震災画報）
新吉原遊郭花園地避難者の惨状大混亂之真景　浦島堂



2. 展示の概況

現時点で判明している 25 点(うち 22 点所有)について、展示した。ただし依頼があったのは 8 月初旬であり、出火や延焼に関する記録との照合の途中であり、大慌てでパネル作成を手作りせねばならなかった。このため、やや雑然とした展示になったのは反省点である。

展示では、場所別の解説に続いて 25 点を掲示した。

A1 丸ノ内・警視庁及び A2 銀座--2 点(うち復刻 1)

警視庁等炎上と銀座に火災襲来の二シーンを描く。

B 日本橋付近--三点(うち復刻 1 点)

日本橋を前景に三越炎上と徒歩や舟の避難を描く。

C 上野広小路･松坂屋付近--二点

上野公園への避難者に迫る火災を描く。

D　万世橋駅前　三点(うち復刻 1 点)

市電の炎上や軍神広瀬中佐像に迫る火災を描く。

E　本所両国石原方面　四点

蔵前等から川越しに本所方面の炎上風景を描く。うち三点は、被服廠や安田邸付近の火災旋風や、蔵前から隅田川を渡る火災旋風を描く。

F　浅草観音　三点

猛火の中焼け残った浅草観音と炎上中の仲見世等を描く。焼け残った浅草寺上空に浮かぶ観音様は、勿論、絵師の空想である。

G　浅草公園・花屋敷　三点

三点とも遠景に上部が倒壊した十二階(凌雲閣)をおき、手前に、当時動物園だった花屋敷に火災が迫り子象を避難させる情景を描く。

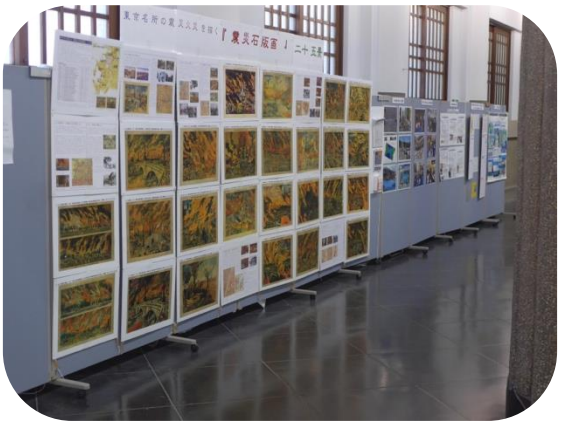
H　吉原（新吉原遊郭）　四点

大門付近の竜巻を伴う火災二点と、吉原公園の池に追い詰められ溺死した二点(うち一点復刻)を描く。

I　上野公園桜雲台　一点

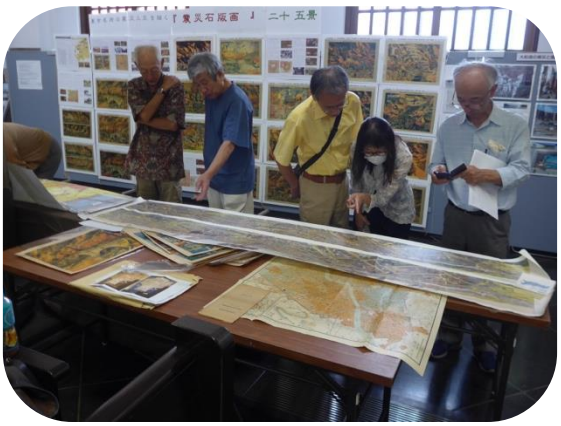
摂政殿下の巡検による視察風景を描く。

これら東京名所の震災石版画は震災 1,2 カ月後に発行された。その迅速性に驚くとともに、絵師が臨場感豊かに極彩色の「震災石版画」に顕したで、震災火災の恐ろしさを観る人に伝えることになった。東京名所絵や伝統的な「地獄絵」に連なる大衆絵として位置づけることも出来るが、今後の研究に待ちたい。



震災記念堂南側に展示

親子連れや友人同士で指しながら話していた



8 月 27 日と 9 月 8 日に筆者による解説も行った

3　成果と課題

これまで「震災石版画」は部分的には印刷物等に引用され知られていたが、全容が把握できたのは今回が初めてである。それでも 2 点ほど未発見の画がある。その探求と避難状況等震災画を通じての研究は今後の課題である。

（吉川　仁都市プランナー/元首都大学東京特任教授）

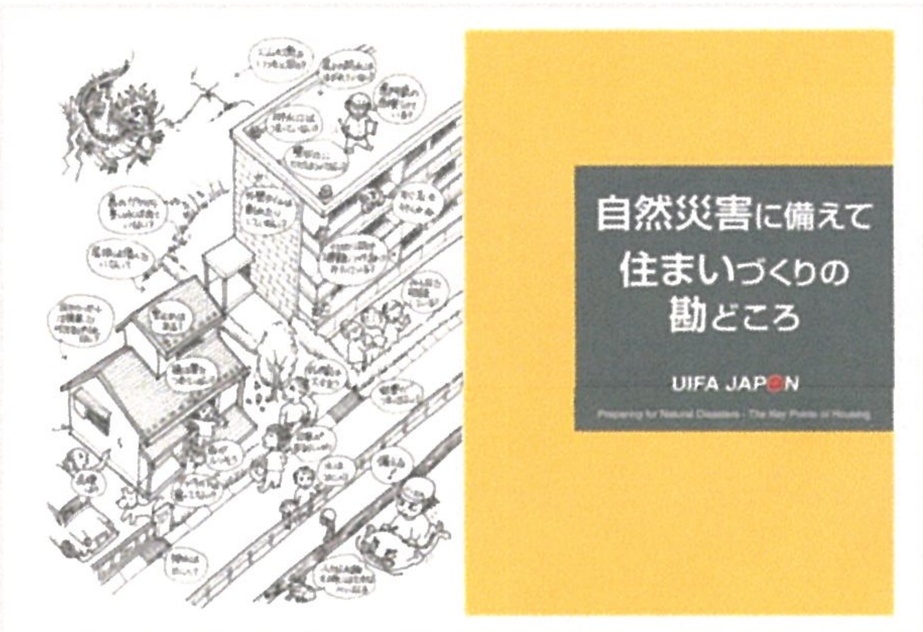
参考文献：北原糸子他『関東大震災絵図』東京美術 2023 年 9 月 1 日

UIFA JAPON 発行『自然災害に備えて　住まいづくりの勘どころ』みらクルＴＶで発表

井出幸子
UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）理事

（1）遠隔地にあっても災害復興を見守りたい

コロナ渦中、身動きとれないもどかしさの中で、今までの「災害復興を見守る」活動経験から、建築・まちづくりなどの実務・研究の専門家としてできることは何なのかと問いながら「自然災害に備える住まい」について冊子を作ることとした。

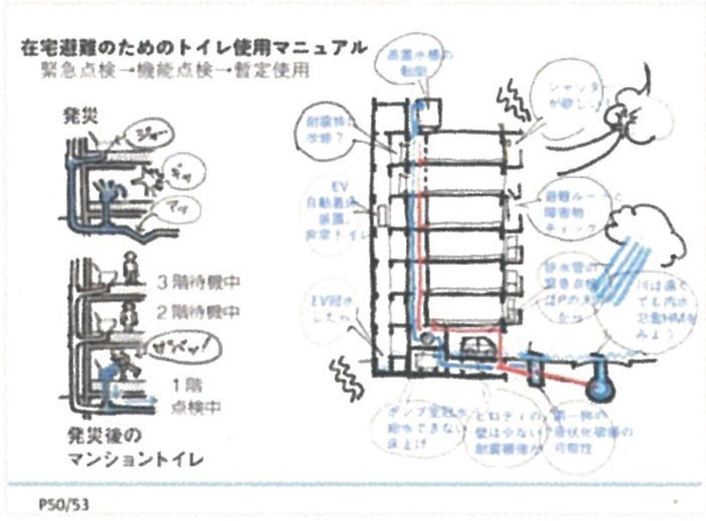


UIFA JAPON 会員 70 名にアンケートを配布したのがコロナ渦中の 2021 年夏。足かけ 3 年で、この 2023 年 3 月末に本冊子を発行し、行政や、建築士会、地域の方々、各種相談会で配布を進めている。

（2）みらクルＴＶの番組で

今年の首都防災ウィークで、みらクルＴＶで、50 分、スライドを多用して８人で概要の説明を行い、即日 YouTube にアップされ、動画で皆さんに視聴していただくことができるようになった（下記の QR コードより視聴可）。内容は、様々な自然災害に見舞われる日本で、どのように暮らしたらいいのか。どのように備えたらいいのか。そのために、まず**A 災害を知る、B 土地を知る、C 住まいというシェルターはどうあって欲しいのか、**そして**D 身近な日常の備え**という４章で構成した。スライドは、イラスト中心に大きく扱ったことで、冊子内のイラストが拡大され、より分かりやすくご理解いただけたことと思う。

みらクルTクルTV特別番組



冊子発行後、集合住宅についての説明を求められ、スライドを追加し説明した。

（3）そして「自然災害に備える　住まいづくりの勘どころ」とは

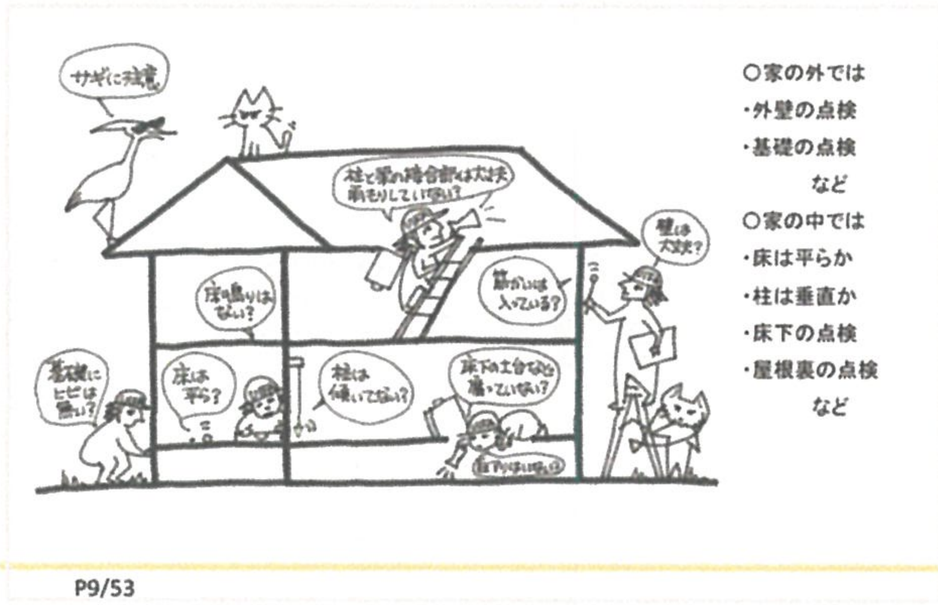
詳細は多様だが、以下４つに集約される、と説明。

1）普段の生活が快適で安全である
2）将来の家族構成の変化や高齢化に対応出来る
3）ご近所とのコミュニケーションがとりやすい
4）機械設備に頼りすぎない生活で災害にも対応

（4）質問は難題ばかり

プレゼン後の質疑に、富士山が噴火したら、という問いに対し、火山灰の成分が送電線の漏電を引き起こすため、すぐ送電を停止する、という説明を返させていただいた。灰も下水に流さず袋詰めなど、芋づるで情報が繋がっていった。

洗濯機の逆流対策は？という問いに対し、これは多種多様な洗濯機ごとの大きな課題、はて？など。



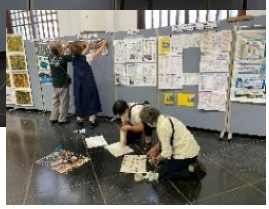
井出幸子（いでさちこ）
前 アール・アイ・エー勤務
現 株）井出幸子建築設計室主宰
東京建築士事務所協会豊島支部副支部長

慰霊堂内展示

稲垣弘子
首都防災ウィーク実行委員／UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）監事

関東大震災 100 年目にあたる第 11 回首都防災ウイークは特別記念展として、「震災石版画」の展示を行った。その続きに、首都防災ウイークとしての活動を展示した。

（展示全景）



（展示作業風景）

（１）大船渡の被災と復興

（写真提供：新沼岩保氏）

サンマ千匹塩焼き提供や竹灯りの竹切り出しで、お馴染の大船渡市の「被災と復興」の様子を展示。12 年前の東日本震災時を思い出し、復興に向けて歩み出す住民の力強さ、平和への願いが込められている。

（２）竹灯り　竹切り出しと制作風景

（写真提供：原香織氏）

竹灯りの竹切り出しには、大船渡の人々が、制作には早稲田大学学生、地元中高生、住民や子どもたちなど多くの人が関り、感動的な点灯に繋がっている。

（３）東海新報記事

東海新報に「大船渡の持続的振興を願って」と題する 30 回連載が掲載されている。この内の数葉を掲示した。それぞれの「大船渡」への思いがぎっしり詰まっている。（新聞記事提供：木谷正道氏）

（４）自然災害に備えて住まいづくりの勘どころ

UIFA JAPON（国際女性建築家会議　日本支部）は、上記小冊子を今年３月発行。被災地での住宅相談の経験と知見を活かし、災害に強く、永く住み続けられる家が増えることを願い作成。

（５）シティコン海底山脈

シティコン（ビル解体に伴うコンクリート塊）で人工海底山脈を建設。魚の増殖による沿岸漁業の復活と食料自給率向上を推進すると共にシティコンの有効利用を図る。（提供：鈴木達雄氏）

（６）防災専門図書館

災害･防災･減災等に関す資料を所蔵する専門図書館。「地震」では、地震の被害状況の報告書や記録だけではなく、震災対応、心のケア、耐震技術等の幅広い資料を揃えている。中林一樹氏寄贈の蔵書も収蔵。（提供：石塚数人氏）

稲垣弘子（いながきひろこ）元駒沢女子大学教授

防災カフェの開催

森田美紀

UIFA JAPON（国際女性建築家会議　日本支部）／会長

1．UIFA JAPON について

UIFA JAPON（ユイファ・ジャポン）は建築関連の仕事に従事している女性技術者の団体です。1963 年にフランスの女性建築家ソランジュ・デルベッツ・ド・ラ・トゥールによって設立された UIFA（Union Internationale des Femmes Architectes）という女性建築家を中心とする国際組織の日本支部として、1992 年に発足しました。会員数 70 名ほどで、男性の賛助会員もおり、建築・まちづくりなどの実務、研究などを専門として、日本各地に居住し、活動しています。

被災地支援活動は 2004 年の中越地震後に「災害復興見守りチーム」を立ち上げることから始まり、東日本大震災後には「どこでもカフェ」「だれでもフォトグラファ」などの支援を開始し、現在まで続いています。

2014 年の第二回首都防災ウィークから参加をはじめて、慰霊堂前のテントにおいて着物を着て、お抹茶とお菓子のサービスを行う「防災カフェ」を開催しています。

「防災カフェ」のテント

2．4 年ぶりの開催

コロナ後の今年の 9 月 10 日、4 年ぶりに「防災カフェ」を開催することができました。3 年間開催できなかったにもかかわらず、私たちのことを覚えていてくださり、楽しみにお越しになるお客様が多くいらっしゃいました。とても嬉しく、感動すら覚えました。覚えていてくださったことに感謝し、ますます頑張らなくては・・・と感じました。

中林先生と

3．つながりを大切に

今回はお抹茶を召し上がった方に「自然災害に備えて　住まいづくりの勘どころ」という 3 月に UIFA JAPON が発行した冊子をプレゼントしました。防災に関することを建築の仕事に携わる女性目線で分かりやすくまとめた冊子です。冊子の紹介は『自然災害に備えて住まいづくりの勘どころ』みらクル TV で発表のページをご覧ください。

カフェを開催してきて、少しずつではありますが「つながり」ができたと思います。そういうつながりが生活にも防災にも大切なのだと感じています。これからもつながりを大切に活動し、防災について考えていきたいと思います。

森田美紀（もりたみき）

㈱アーククルー一級建築士事務所　代表取締役

UIFA JAPON（国際女性建築家会議　日本支部）

会長

第2回 誰でも囲碁大会

障害のある人もない人も！入門者から段位者まで！

※手話通訳あり、視覚障がい者補助あり

2023年9月3日(日) 10:00～16：40（受付 8：50～）

公益財団法人 日本棋院2階ホール（ＪＲ、地下鉄市ヶ谷駅徒歩5分）

（東京都千代田区五番町7-2）

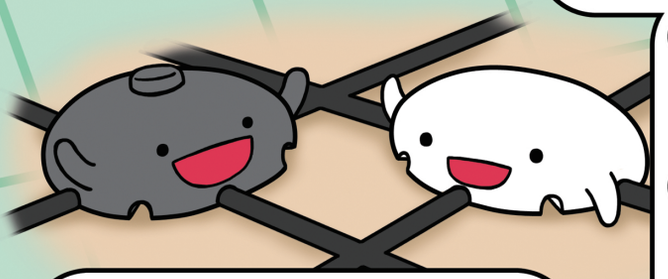
参加費：一般1000円　高校生以下500円（介助者は無料）

定員180名

※希望者のみ
9：10～9：50
囲碁殿堂ツアー

10：00～開会式

併催:8/27(日)～9/3(日)
とろろの楽しい囲碁イラスト展



入門者向け

●**入門講座**（水間俊文八段）
※手話通訳付き

●**視覚障がい者向け入門講座**（柿島光晴）
講座のあとは７・９・１３路
自由対局　をお楽しみください

級位者～段位者向け

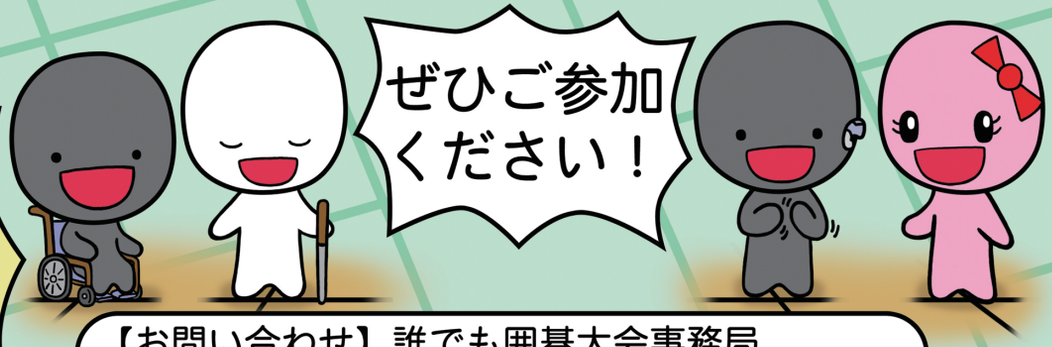
●**棋力アップ講座**（白石京子四段）
※手話通訳・視覚障がい者補助あり

●**トーナメント戦**（級位戦・段位戦・最強戦）
※3回戦ですが、1局、2局だけの参加も可能です。

ミニコンサートもあります!

ゲスト棋士！

岡田伸一郎	九段
水間俊文	八段
信田成仁	七段
岡田結美子	六段
白石京子	四段



【お問い合わせ】誰でも囲碁大会事務局
e-mail：dareuke@googlegroups.com
TEL：090-9390-4264（山中）
FAX：03-3752-0844

誰でも囲碁大会　開会の挨拶

中林一樹
首都防災ウィーク実行委員会代表／東京都立大学名誉教授

2023 年 9 月 1 日は、関東大震災の１００年目の震災記念日でした。翌 2 日からは関東大震災 101 年目に入りましたが、改めて、30 年以内の発生確率７０％以上といわれる首都直下地震に対して、「備えを常に」の思いを強くしています。皆さまはいかがでしょうか。

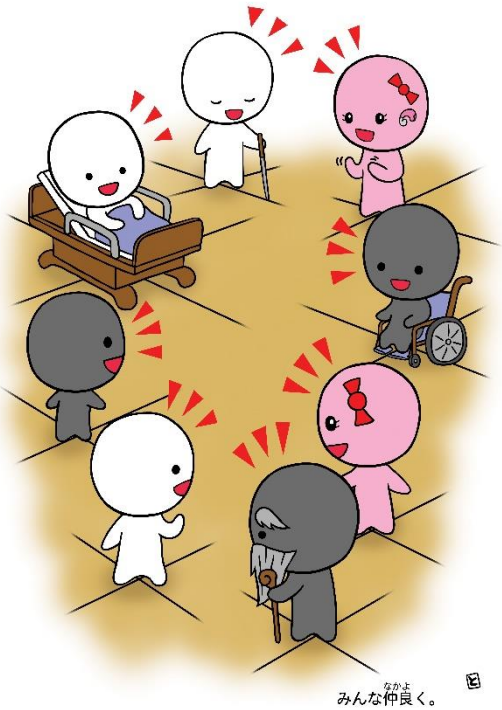
今年の首都防災の基本テーマは、「つながりあう防災」です。英語では「人」を“Human Being”　単なる生物、動物ではなく「ヒトらしい存在」と表していますが、私たち日本人は、「人間」、すなわち「人と人のあいだ(間)にいる存在」と表現しています。私たちは、孤独ではなく、「誰かと繋がっている存在」なんだ、ということだと思っています。
それは、平時も、災害時も、いかなる時も、私たちは一人ではなく、「誰かを支え、誰かに支えられている、それが人間なんだ」と思います。

災害に対応する要(かなめ)は、「自助」と「共助」と言われ、「自分で自分を守るのが自助」と説明されることが多いと思いますが、最近、私はこのように考えることにしています。自助とは、「誰かを支えるために自分を守ること」で、その「自助があって初めて誰かを支える「共助」が可能となるからだ」と考えているのです。

2023 年 9 月 1 日に関東大震災 100 年の節目を無事越えて、今日は、これからの百年に向かって、「みんなの、みんなによる、みんなのための防災」、つまり「つながりあう防災」を、一人一人の「身の回りから、改めて確認して備える機会」に出来れば、と思っています。

誰でも囲碁大会、その出会いが、さらに素晴らしい「人間らしい防災」「つながりあう防災」の、更なる“ながりあい”となることを期待して、挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

令和５年９月３日　日本棋院にて



手談でつながる人々—「第２回誰でも囲碁大会」参加レポート　品田渓（囲碁ライター）

2023年09月07日　※日本棋院サイトから転載させていただきました。

第２回誰でも囲碁大会が９月３日、首都圏防災ウィークの一環として日本棋院で開催された。

「誰でも囲碁大会」の旗振り役は視覚障害者用の碁盤「アイゴ」の普及を行っている柿島光晴さん。大会の名前は年齢、性別、障害の有無にかかわらず誰でも気軽に参加できるようにと願いを込めた。第２回の今年は昨年を大きく上回る130人が参加（昨年は80人）。

そのうち約40人はなんらかの障害を持つ方で、複数の特別支援学校から初めて碁に触れる青少年の参加もあった。

記者は昨年、第１回誰でも囲碁大会の取材を行った。自由でリラックスした雰囲気に惹かれ、今年は記者も大会にエントリーした。今回はひとつ、参加者の一人として感じたことを書いてみたい。

会場はとても賑やかだった。誰かと会話をしている人が多い。会話の相手は友達だったり、補助や介助の付き添いでいらしている方だったり、たまたま目の前にいる人だったり。

私もほっとかれなかった。自席に着くと、ななめ前にいた方に「どこからいらしたんですか」と話しかけられ、開会式が始まるまでおしゃべりした。

どことなくヨーロッパ碁コングレスに雰囲気が似ているなと思った。ヨーロッパ碁コングレスは毎年夏にヨーロッパで約２週間にわたって開催される囲碁イベントで、ヨーロッパ各地からはもちろん、アジア圏からの愛好家も多く集まる。

日本人から見るとヨーロッパの人が明らかに違うように、誰でも囲碁大会の参加者は健常者から見ると明らかに違っている人が大勢いた。

聴覚障害がある方は手話で会話をするし、視覚障害がある方は杖をついて歩く。ダウン症の方もいれば、脳性麻痺の方もいる。それがとても自然だった。初めから違うことが前提だから、同じでないことに違和感もない。それが、健常者である私にとっても開放的で心地よかった。

大会には棋力に応じていくつものクラスがあり、入門講座やランクアップ講座といったイベントも豊富だった。

私が参加したのは最強戦。１回戦目は囲碁普及の一環としてマンガ『ヒカルの碁』を全国の小学校に寄贈する取り組み「ヒカルの碁寄贈プロジェクト」を推進している喜多さんと、２回戦目は神奈川の強豪で脳性麻痺がある能勢さんと、３回戦目は元院生で視覚障害のある岩崎さんとアイゴを用いて対戦した。

月並みな感想だが、とても楽しかった。私は碁そのものの奥深さも好きだが、それ以上に対局すると対戦相手の背景を感じられるのが好きだ。碁にその人が歩いてきた道が見えるような気がする。

初対面の人との会話はたいがいお天気の話と自己紹介止まりだが、対局すれば、それだけでその人の力強さや実直さ、あるいは老獪さが知れる。そういう深く付き合わなければ知りえないようなその人の一面を、碁を通じて垣間見れるのはとても特別なことに思う。

我が身を振り返ると、普段は障害を持っている方に対しては障害という大きな違いに目が行ってしまい、その方を知るところまでたどり着けていない。けれど今回の大会では能勢さんの勇気と力強さを感じたし、岩崎さんの勉強量や冷静さ、堅実さを知ることができた。

すべての対局が終わると、表彰の準備を行うまでの間にミニコンサートが行われた。視覚障害当事者で本大会の参加者でもあるバイオリニスト、白井崇陽さんによるバイオリンの独奏だ。エルガーの「愛の挨拶」に始まりアニメ『ヒカルの碁』のオープニング曲まで。どこか郷愁を誘うしっとりとした音色が心に沁みた。

昔から碁は言葉のいらないコミュニケーションという意味で「手談」と言われる。碁盤を介せば誰もが対等で勝つために真剣だ。真剣だからその人の内面にも触れることができる。

ここにいる人たちは持っているものも境遇もまるで違い、普段の生活の中で交じり合うことはめったにないだろう。しかしここに集っている間は誰もが碁を楽しむ仲間だった。そして一度対局すれば、その人とは１時間以上かけて語り合ったのと同じだ。もう他人ではない。

記・品田渓

2003 年（20 年前）の「耐震補強を考える」原点

「大地震を迎え撃つ」13 日間で 12 の連続パネル討論

藤村望洋

内閣府・地域活性化伝道師／NPO 法人東京いのちのポータルサイト副理事長

１．まち場の NPO が「防災まちづくり」を開始！

「耐震補強と家具固定は命を守る」

このテーマの原点は、20 年前のイベントでした。「関東大震災 100 年目・首都防災ウイーク」の主催団体の一つである「NPO 法人東京いのちのポータルサイト」が 2003 年に立ち上がりました。

立ち上げイベントとして同年 2 月 15 日～2 月 27 日の 13 日間で 12 の連続パネル討論と 22 の展示を、電通銀座ギャラリーで行いました。

死なないために　いま、自分たちにできること

大地震を迎え撃つ！

地域・民間主導の防災ネットワーク

東京いのちのポータルサイト緊急イベント

5:46衝撃映像／12連続パネル討論／22の展示で、破局回避の方策を問う

現場を抱える町場の NPO の呼びかけだからこそ、トップレベルの各大学の地震の専門家、東京都と総務省消防庁や内閣府、防災の最先端の企業群が一堂に会して、「死なないために」、今、町場で何ができるかを話し合うことができました。

その瞬間、自分と家族、近隣だけが頼りです。まち場の力と最新技術を駆使して、地域のコミュニケーションと防災の能力高め、首都圏大地震を待ち構え、迎え撃つ！官学民が結集した〈東京いのちのポータルサイト〉は、破局を回避し、日本再生の底力となるか？

中林一樹先生、鍵屋一氏、木谷正道氏、中川和之氏、寿乃田正人氏、五辻活氏、小田順子氏等々 20 年前の主力メンバーが 20 年後の関東大震災 100 年目に再び集い、原点を確認し、今、何をすべきか話し合いました。

２，死なないために、耐震補強を！

2003 年は阪神淡路大震災から 9 年目。私たちは、二つの大地震（東海と首都直下）の脅威にさらされていました。そして 20 年後の今も。

阪神淡路大震災の死者 6433 人の 9 割は、発災後 30 分以内に亡くなったこと、その死因が家屋倒壊と家具の転倒によるものであったことが、東京大学の目黒公郎先生によって、一人一人の死因の分析画像で示されました。厳然たる事実の分析に参加者一同重い衝撃を受けました。死なないためには、防災訓練よりも、炊き出しやトイレの準備よりも、もっと先にしなければならないことがある！死なないためには家の耐震補強と家具固定が何よりも優先されることが明確となりました。

この日を原点とした官学民挙げての耐震補強推進の活動により、20 年後の現在では、まだまだ木造密集市街地は残ってはいるものの、家屋の建て替えが進み、耐震補強はかなりの進展を遂げましたが、長周期地震動や 300 万人にも及ぶ帰宅困難者や渋滞の車列や駐車場の車の延焼爆発など新たな課題も発生しています。

３、「明日も生きたくなるまちづくり」を！

20 年前、中林一樹先生は「地震を止めることはできないが、災害を止めることはできる。災害は止めよう、戦争もやめよう」というメッセージを発信されました。

20 年後の現在では、「事前復興」の考え方に立つ平常時からの取り組みが求められています。「死なないための防災対策」から、発災後の復興まちづくりを事前に視野に入れた「明日も生きたくなるまちづくり」を平常時の「今！」始めることが話し合われました。

ふじむら　ぼうよう　阪神淡路大震災の語り部。NPO法人東京いのちのポータルサイトの立ち上げイベント「大地震を迎え撃つ」総合プロデューサー。早稲田商店街と共に「リサイクルと防災のまちづくり」を推進。「ぼうさい朝市ネットワーク」の全国の商店街と共に東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた南三陸に「福興市」を立ち上げて支援。「みらクル TV」の「災害ユートピア」と俳句番組「一句多会」を担当。

クイズ防災穴あき俳句・関東大震災編

なぜ関東大震災の俳句は少ないか？

藤村望洋

俳句・ARC セッション主宰／NPO 法人東京いのちのポータルサイト副理事長

１．関東大震災の俳句が異常に少ない理由

1923 年の関東大震災によって、高浜虚子は、ライバルの河東碧悟桐や当時は並び立つ存在であった久保田万太郎らと同様に、鎌倉の自宅で被災した。しかし、虚子は、河東碧悟桐や久保田万太郎のような俳句は残していない。意識して俳句に詠まなかったと言える。戦争や地震や社会問題を詠う「時事俳句」を虚子は否定した。虚子は、「花鳥諷詠」を重視して、暗いもの、汚いもの、怖しいものは詠むべきではないという主張を展開し、戦争や地震や社会問題などを詠みたいならば、短歌や詩などその任に耐えられる表現方法を選べばいいと。よって俳句界の一大勢力であったホトトギス派は、地震俳句を避けるようになった。

もう一つ、虚子が季語「震災忌」に反対した理由は「季語」の特性。「伝統的な季語は、季節という螺旋状に循環しながら進んでいく時間概念の上にあって遥かな過去とも未来とも連接していくものである。しかるに〈震災忌〉は、歴史にも個人の記憶にも深く刻まれた明確な（時間的）起点をもっていて、そこからカウントアップされていく時間が不随している。起点となる出来事以前と以後では時間の質が明らかに異なっている」（中原豊「忌日季語の時間制」）という、伝統的正統派が最も重視する「季語」の本質にかかわる反対論である。

これに対して、季語「震災忌」を、防災の観点から発想するならば、その時を境に時間軸が断層の様にずれたとしても、その断層を抱えて螺旋状に循環する防災の時間概念を、防災表現として詠わなければならない、との反論が成り立つ。

２、関東大震災の俳句

虚子のライバルの河東碧悟桐や当時は並び立つ存在であった久保田万太郎は、震災俳句を独自の視点で詠んでいた。

河東碧悟桐の震災俳句を穴あき俳句で考える。

地震(なゐ)知らぬ春の夕の〇〇〇かな

ずり落ちた〇〇〇ふみ平(な)らす人ら

自由律的で深刻さや震災の悲惨さはないが、被災している実感が確かに伝わってくる。（解答「夕の仮寝かな」「ずり落ちた瓦」）。

久保田万太郎の震災俳句。

「大震災のあと駒込のさる方に立退き半月あまりをすごす。夏、夢の間に去る」（の前書）

秋風や水に落ちたる〇〇の色

「震災のおもいでとや」（の前書）

一トむかしまへうち語る〇〇〇かな

かまくらの月のひかりや震災忌

震災忌向あうて蕎麦啜りけり

「蕎麦を啜っている」ことが現実なのかどうか、「かまくらの月のひかり」は、震災前と同じなのかどうかを万太郎は問うている。「震災を挟んでの実と虚」。「『実』の一辺倒になりがちな『震災俳句』に『虚』を与えている」と藤田祐史（金城学院大学文学部准教授）は言う。（穴あき俳句解答。「空の色」「切子かな」）。

「万太郎は、日本人が古来から精神的に拠り所としての安らぎを得られる土地や空間、その場所から湧き出してくる安堵感や情緒的景観をことごとく粉砕し、消滅させたのが震災であったとして、関東大震災が奪い去ったものが、物資的な破壊に留まるものでなく、情緒ある景観から喚起される心性としての安らぎの喪失感を、根深いものとして捉えていた」（千葉正昭「久保田万太郎『春泥』小解」）

ふじむら　ぼうよう　阪神淡路大震災の語り部。内閣府・地域活性化伝道師。早稲田商店街と共に「リサイクルと防災のまちづくり」を推進。「ぼうさい朝市ネットワーク」の全国の商店街と共に東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた南三陸に「福興市」を立ち上げて支援。「みらクル　TV」の俳句番組「一句多会」と「災害ユートピア」を担当。

「防災専門図書館」紹介動画について

公益社団法人 全国市有物件災害共済会 防災専門図書館

1. 防災専門図書館の紹介動画について

1956 年に開設した防災専門図書館は、収集した資料を活用して住民の防災意識の向上に貢献することを目的とした、どなたでも無料で利用できる公開型図書館です。

しかし、2020 年 1 月頃から始まったコロナ禍により、図書館への来館を中止もしくは制限せざるを得ない状況になってしまいました。このように防災専門図書館のことを皆様に直接 PR できる場が、国の政策によって制限されたのは、想定外でした。そのような環境下で、Web サイトを通じて PR しようと図書館紹介動画を制作することになり、2020 年 7 月に最初の紹介動画を Youtube にアップしました。

2. 首都防災ウィークでの図書館紹介動画の放映

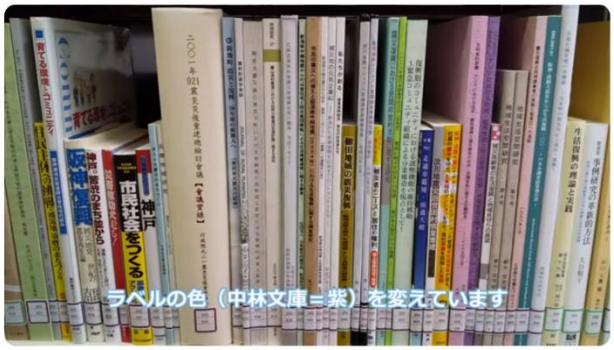
2021 年 9 月、第 9 回首都防災ウィーク開催のタイミングに合わせて、さらに 3 本の紹介動画を制作・公開しました。どれも主演は中林一樹先生です。そして、今年（2023 年）9 月は、その中から、中林先生に利用者に扮して出演いただいた「防災専門図書館 探訪」を放映しました。

＊防災専門図書館紹介動画 4 本は、Youtube・防災専門図書館 HP から閲覧できます。

タイトルページ

問い合わせの様子（閲覧室カウンター）

東日本大震災関連資料を前に



書庫（「中林文庫」の紹介）

＜紹介動画閲覧サイト（図書館 HP）＞

（執筆：矢野陽子）

防災専門図書館企画展
「関東大震災から 100 年～備えよう！首都直下地震」について

公益社団法人 全国市有物件災害共済会 防災専門図書館

1. 防災専門図書館について

防災専門図書館は、公益社団法人全国市有物件災害共済会の事業の一つとして、1956 年 7 月に東京都千代田区において開設しました。

防災・災害に関する資料を 17 万冊所蔵し、どなたでも無料で利用できる図書館です。電話・メールでのお問い合わせも受け付けていますので、気軽にご連絡ください。

2. 防災専門図書館企画展の紹介

防災専門図書館では、毎年企画展を開催しています。2023 年度は、9 月 1 日が関東大震災から 100 年の節目の年となるため、当館が所蔵する約 800 冊の関連図書を駆使し「関東大震災から 100 年 ～備えよう！首都直下地震」と題した企画展を、来年 2024 年 9 月 30 日まで開催中です。

企画展は大きく 2 部構成となっており、前半では、関東大震災の被害と復興の様子を、神奈川県と東京都を中心に、千葉・埼玉県も含めて展示しています。展示パネルは、デジタル化した蔵書や写真、東京都復興記念館等から提供いただいたデジタル化データ等を利用して、視覚的に分かりやすい内容で作成しました。また、後半は関東大震災の教訓を得たうえで、首都直下地震が発生した場合、私たちはどのようにして身を守ることができるのかを考える展示になっています。被害想定だけでなく、日頃からの備えを重視した内容です。

首都防災ウィークの期間中は、東京都慰霊堂内でポスターの展示とチラシを設置し、多くの方にお持ち帰りいただくことができました。企画展は来年まで開催していますので、みなさまのご来場をお待ちしています。　　（執筆：矢野陽子）

防災専門図書館

住所：東京都千代田区平河町 2－4－1
日本都市センター会館 8 階
電話：03-5216-8716
メール：lib.bousai@city-net.or.jp
開館日：平日 9 時～17 時

図書館 HP　　X（Twitter）

企画展「関東大震災から 100 年」ポスター（左上）と、吉田初三郎「関東震災全地域鳥瞰図絵」（下）

口笛の調べ

演奏

YOKO

2018 年に行われた口笛世界大会に初出場し、総合優勝。世界的にも珍しい口笛の演奏家としてデビューし、さまざまなメディアやイベント出演、YouTube での配信活動を続けている。どこか懐かしく、さわやかで強い音色が特徴。

演奏曲目

●アメイジング・グレース
讃美歌のひとつで、神の恵みに感謝をする歌です。未曾有の災害を乗り越え、日本の国をつくってきてくれた先人たちへ感謝を込めて演奏します。
●若者たち
日本のフォークバンド「ザ・ブロードサイド・フォー」が 1966 年にリリースした歌です。あの頃の若者たちの、生き生きしさが感じられる曲です。
●虹と雪のバラード
1972 年に開かれた札幌オリンピックの歌です。これからも世界の舞台に立ちつづける、豊かな日本であってほしいと願いを込めて演奏いたします。
●Bridge over troubled water
アメリカのフォークデュオ、サイモン&ガーファンクルが 1970 年にリリースした歌です。荒波のなか、苦境にたつ人を励ますような曲です。